

## 自転車活用推進計画への意見に対する対応

項 目	意見要旨	対 応
計画の策定について	市民に対して計画の策定状況を積極的に発信し、意見をもらい、それを反映しながら策定を進めると良い。 【平田会長 第1回協議会】	市のホームページに特設ページを設け、庁内PTの活動内容や自転車活用推進協議会の開催結果等を掲載するとともに、市民の方から自転車活用に関する意見を随時募集しました。
	長期的にやることを意思表示しておきつつ、予算制約も考慮した短期の計画を作り実行していくことが重要。長期計画も定期的に見直ししながら、県の計画期間と一定程度は歩調を合わせた方がよい。【平田会長 第2回協議会】	自転車ネットワーク路線を、日常使い（生活系ネットワーク）と観光利用（観光系ネットワーク）の両方の視点から設定したこともあり、その整備には長期を要することから、計画の期間は10か年としました。なお、中間年（5年）において、事業の進捗等を踏まえて、見直しを行ってまいります。 【計画素案1ページ掲載】
市内の自転車関連事故等について	事故の形態について、一つ一つの形態、集計したデータなどを示すべきではないか。【平田会長 第1回協議会】	「本市の現況」において、市内の「自転車関連事故の発生状況」の分析結果を掲載しました。 【計画素案28ページ掲載】
	ヒヤリ、ハッとした経験について集めてほしい。実際に自転車で走っている方の意見が欲しい。 【平田会長 第1回協議会】 数字やデータに残らないヒヤッとした経験などの情報、口コミなども集めたほうがよい。 【峯岸委員 第1回協議会】	昨年実施した市民・高校生アンケートにおける「自転車に関する危険な経験」や「市内で自転車通行が危険だと思う場所」の集計結果を、参考資料として掲載しました。 【計画素案39ページ掲載】
アンケート調査について	市民アンケートの質問16「危険な経験の有無」について、主体が分かりづらいため、注釈を入れた方がよい。 【平田会長 第2回協議会】	注釈を記載しました。 【計画素案39ページ掲載】
	高校生アンケートの質問の走行位置の選択肢「交互」について、注釈を入れた方がよい。 【平田会長 第2回協議会】	注釈を記載しました。 【計画素案39ページ掲載】
	アンケートやヒアリングの結果をフィードバックして、継続的に教育的指導等を含め、どこに問題があり、どう解決するのか、小中学校を含めて連携しながら取り組んでほしい。 【平田会長 第2回協議会】	基本方針2に「交通安全意識の醸成」を施策に掲げ、「世代ごとの特性に応じた交通安全教室の開催」等に取り組みますので、昨年実施した小・中学生アンケート等の結果を踏まえ、小中学校等と連携しながら、効果的な交通安全教育を継続的に実施してまいります。【計画素案46ページ掲載】
	小中学生クイズについて、どういうシートで調査したのか分かれるとよい。【中村委員 第2回協議会】	調査シートは、計画の最終版に参考資料として掲載します。

計画の基本方針について		<p>市としてのコンセプト【方針】を共有しないとイケない。 【平田会長 第1回協議会】</p>	<p>基本理念として「市民が自転車をたのしみ、サイクリストを迎えるハートのまち」を掲げ、「市民が楽しく自転車を活用することにより、新しい暮らしのコミュニケーションを創出し、やさしく来訪者を迎えるハートのまちのおもてなしで、新しい交流とにぎわいあふれるまちを目指す」としました。 これらについては、市ホームページ等での自転車活用推進協議会の開催結果等の掲載や、令和2年第1回市議会での計画骨子の報告などを通じて、市民に対して積極的に発信をしました。 【計画素案42ページ掲載】</p>
		<p>日常生活や安全な利用がはじめにあり、ここができて、はじめて外からの観光客をお迎えするとか、結果的に健康に繋がると思う。そういう順序ではないかと個人的には思っている。 【平田会長 第1回協議会】 レジャーと日常使いを分けて考えた上で、両面から考えると持続可能性が高い。 【平田会長 第1回協議会】</p>	<p>当初は「サイクルツーリズムの推進」をメインに考えておりましたが、当協議会での意見等も踏まえ、基本方針として、市民向けの「自転車のルールを守ってみんなで安全に乗ろう」と観光向けの「交流とおもてなしで地域を盛り上げよう」を掲げ、バランス良く地域活性化を目指していくこととしました。 【計画素案42ページ】</p>
自転車活用を促進する施策について	対象について	<p>幅広い年代で自転車を使える方は使っていく社会に変わっていくような取り組みができればよい。 【絹代委員 第1回協議会】</p>	<p>基本理念には「全ての市民が自転車をたのしみ、にぎわいあふれるまちづくりを目指していく」という趣旨も込められており、「世代ごとの特性に応じた交通安全教室」や「健康維持・増進につながる自転車活用の推進」に取り組むことで、子供から高齢者まで幅広い世代での自転車の活用が図られるよう努めてまいります。 【計画素案50・52ページ】</p>
	交通・安全に関する施策について	<p>高齢者に対して、早い段階からルールを伝えること、安全に乗れるようにすることが重要。安全面の施策を分厚くした方がよい。 【絹代委員 第1回協議会】 免許返納後、自転車に乗り換えようと思っているシニア層の方が増えてくる可能性があるのだとすれば、事故件数がぐっと増えて、更にシニア層は重傷傾向にある。このことを踏まえて、計画を練っていただきたい。 【絹代委員 第2回協議会】</p>	<p>基本方針2に「交通安全意識の醸成」を施策に掲げ、高齢者も含めた「世代ごとの特性に応じた交通安全教室の開催」等に取り組むとともに、自動車の運転手に対する「思いやり運転の意識醸成」や「道路の危険個所の改修・改善」に努め、高齢者の安全利用に十分に努めてまいります。 【計画素案50・52ページ】</p>
		<p>学生へのヘルメットの無償配布について、若者受けする格好良い形のヘルメットを選べるようにしてはどうか。 【絹代委員 第1回協議会】</p>	<p>現在の無償配布しているヘルメットとの費用面等の比較をした上で、担当部署等と協議してまいります。 【計画素案51ページ】</p>
		<p>ヘルメットを被っているかどうかで頭の怪我が変わることから、市から学校側に生徒のヘルメット着用を促すように指導した方がよい。 【日向委員 第2回協議会】</p>	<p>市内中学校・高校の生徒の通学での自転車利用率は高いことから、基本方針2に「交通安全意識の醸成」や「自転車を安全に利用するための啓発」を施策に掲げ、その中でヘルメットの着用促進に取り組んでまいります。 【計画素案50・51ページ】</p>
	<p>自転車への安全講習ばかりではなく、自動車への教育も必要。皆で道路空間をシェアして安全に使うということは重要であるため、ドライバーへの意識付けをしてほしい。 【平田会長 第2回協議会】</p>	<p>自動車の運転手への意識付けも重要であることから、各種イベント等における運転手への啓発を検討してまいります。また、自動車の運転手への注意喚起に資するよう、自転車ネットワーク路線への矢羽根等の整備を進めてまいります。 【計画素案47ページ】</p>	

自転車活用を促進する施策について	交通・安全に関する施策について	交通安全教育の充実の中に、目指す方向を具体的に描かれた方がよい。【絹代委員 第2回協議会】	現在の自転車の主な利用者である中・高生だけでなく、「世代ごとの特性に応じた交通安全教室の開催」や「未就学児に対する交通安全教育」に取り組むことで、幅広い世代で「交通安全意識の醸成」を図り、自転車利用者の増加を図る中でも「自転車関連交通事故件数の減少」を目指してまいります。 【計画素案45・50ページ】
		自転車の走行エネルギーを活用して走行警告音等のメロディを発生させる装置を設置してはどうか。 【メール等による意見】	自転車の利用にあたっては、安全に自動車と共存することが重要でありますことから、ご意見のような取組の可能性も含めて調査・研究してまいります。
	受入環境に関する施策について	シェアサイクルも今後検討していくのか。 【絹代委員 第1回協議会】	基本方針1に「公共交通機関との連携」を施策に掲げ、「シェアサイクルの導入検討」に取り組みますので、市民への自転車利用促進、観光面での自転車活用の両面での必要性を十分に検討した上で、有効な手段として積極的に検討してまいります。 【計画素案49ページ掲載】
		水戸市が実証実験で実施しているシェアサイクルを参考にしてほしい。【平田会長 第2回協議会】 水戸市のシェアサイクルに関する取組についてよく研究されたほうがよい。【中村委員 第2回協議会】	シェアサイクル導入の検討に当たりましては、水戸市の実証実験も含め、他市町村の取組の状況を十分に調査した上で、検討を進めてまいります。【計画素案49ページ掲載】
		駐車場が広く、トイレもあることから、なか健康センターをフルに活用してもらいたい。 【宮野委員 第1回協議会】	なか健康センターは、那珂市の中心に位置し、上菅谷駅に近接していることに加え、自転車利用者にとって休憩や入浴ができる優れた環境であることから、本市の自転車活用の拠点として位置付けをお願いしたいと考えております。 【計画素案34・67ページ掲載】
		市内のお店や、学校、公園等の公共施設に駐輪設備を整備すべきではないか。 【メール等による意見】	基本方針1に「自転車利用環境の計画的な整備」掲げ、「サイクルサポートステーションの設置（休憩スペースやトイレの提供、自転車ラックや工具を設置）」を進めますので、設置場所の検討に当たっては、参考とさせていただきます。 【計画素案47ページ掲載】
	日常利用に関する施策について	中心地の魅力として、自動車がなくとも、徒歩・自転車で快適に過ごせる雰囲気をつくるのは重要。 【平田会長 第1回協議会】 歩行者のための遊歩道【両宮遊歩道】も活用した方が良いと思う。 【平田会長 第1回協議会】	菅谷地区は、住民や店舗が多いことに加え、両宮遊歩道などの自転車での散走に適した場所も多いことから、市民だけでなく観光客向けも含め「ポタリングの推進」等の仕掛けを検討してまいります。 【計画素案65ページ掲載】
		都市づくりの視点から自転車を活用してもらうために、上菅谷特定の自転車活用プロジェクトとして考えるとよい。 【平田会長 第1回協議会】 那珂市菅谷の宮の池からの素敵な遊歩道【両宮遊歩道】を紹介してほしい。また、門部の古墳の鳥の象形文字や新聞の印刷技術を取り入れたオブジェなど一つ一つ細かく説明した遊歩道のパンフレットを作成してはどうか。 【メール等による意見】	

自転車活用を促進する施策について	日常利用に関する施策について	市役所職員が自転車で通勤するなどの動きを市内全域で広げていき、那珂市に來ると自転車利用者が多いという印象を來訪者に与えることは強いアピールになる。 【平田会長 第1回協議会】 まずは、市役所職員の自転車通勤を推奨すべきではないか。 【メール等による意見】	基本方針2に「交通手段としての自転車利用の促進」を施策に掲げ、「市役所における自転車通勤制度の導入」を検討してまいります。【計画素案51ページ掲載】
	サイクルツーリズムに関する施策について	自転車の認知度を高め、サイクリングのハードルを下げするため、ママチャリで10～15キロで走れる大会、少人数【10人程度】の大会を頻繁に開いてはどうか。 【東ヶ崎委員 第1回協議会】	基本方針3に「サイクルツーリズムによる地域の活性化」を施策に掲げ、「市民と連携したサイクリングイベントの開催」や「ポタリングの推進」に取り組み、市民や観光客が気軽に自転車を利用できる環境づくりに努めてまいります。 【計画素案54ページ掲載】
		市民の方がここを一周すれば、エネルギーをどれくらい消費できる、または、環境にやさしいなど、ジャンルを分けて提案する、目標を決めてコースを考えるという形があってもよい。 【絹代委員 第2回協議会】	周遊コースの設定やサイクリングマップの作成に当たっては、委員の意見にあるような視点も含めて検討してまいります。また、自転車のイベントを開催するに当たっては、「元氣アップ! りいばらき」の活用を進めてまいります。 【計画素案55ページ掲載】
		サイクルツーリズムの目標が、サイクリングイベントの動員数でよいのか。施策になるような形でやってもらえたらよい。 【絹代委員 第2回協議会】	サイクルツーリズムを推進するためには、市民の参加・協力による「おもてなし」が重要であることから、「自転車活用拠点」や「サイクリストにやさしい協力店舗等」の確保に取り組むこととしておりますので、目標についても「市内の協力店舗数」に修正しました。 【計画素案45ページ掲載】
		サイクルツーリズムでいかに人を呼び込むか、地域を活性化するかに狙いがあるのか。 【絹代委員 第1回協議会】	当初は「サイクルツーリズムの推進」をメインに考えておりましたが、当協議会での意見等も踏まえ、基本方針として、市民向けの「自転車のルールを守ってみんなで安全に乗ろう」と観光向けの「交流とおもてなしで地域を盛り上げよう」を掲げ、バランス良く地域活性化を目指していくこととしました。 【計画素案42ページ掲載】
		泊まることで自転車だけではない楽しみ方が出来るため、宿泊施設が重要。那珂市ならではの民泊を進めてはどうか。 【日向委員 第1回協議会】	那珂市には宿泊施設が少ないのが現状ですが、まち・ひと・しごと創生総合戦略の中で、民泊の取組も検討することになっておりますので、実現した際には積極的に連携してまいります。
		観光系では観光利用者に対する安全教育も必要。 【中村委員 第2回協議会】	県の取組を参考にしながら、自転車イベント等において、観光利用者への啓発を行ってまいります。
		サイクリングマップを作成する際に、県外の方にも分かるように、ポイントごとの距離や、試走時のかかった時間などを入れた方がよい。また、危険な場所などの情報も入るとよい。 【峯岸委員 第2回協議会】	委員のご意見も踏まえ、より利用者へ便利なサイクリングマップの作成に努めてまいります。 【計画素案55ページ掲載】

自転車活用を促進する施策について	サイクルツーリズムに関する施策について	<p>ストーリー性を打ち出すために、コースをハート型にしてはどうか。</p> <p>【綱代委員 第2回協議会】 那珂市にも神社やお寺があるので、そこを巡るサイクリングコースがあってもよい。御朱印巡りも流行っているのので、そのルートをつくるのも面白い。目的地があるルートをつくってもよいのではないかと。那珂市に来なければ、行けないルートを設定してほしい。</p> <p>【國井委員 第2回協議会】 お寺やJRの駅など、サイクリストがトイレを使用できる施設の案内があるとよい。また、メインルートから外れた、田畑や、地元の方と触れ合える小道ルートに入れてもよい。</p> <p>【峯岸委員 第2回協議会】 春は桜、八重桜などの花スポット、夏はブルーベリー狩りとひまわり畑、秋は紅葉と蕎麦、冬は白鳥と雛祭りや干し芋など、地図に記入した四季の見所コースを作ってみてはどうか。</p> <p>【メール等による意見】 瓜連駅とらぼーにサイクルサポートを置いて、古徳沼、静神社、県植物園を周るコースを設定してはどうか。瓜連駅周辺は国道と鉄道が交わる場所なので、どちらの利用者も取り込める。瓜連城跡や久慈川方面を含めてもよい。</p> <p>【メール等による意見】</p>	<p>計画の基本方針3に「サイクルツーリズムによる地域の活性化」を施策に掲げ、「地域資源を活かした周遊サイクリングルートの構築」に取り組みますので、周遊コースの設定やサイクリングマップの作成に当たっては、本市の特徴であるハート形の地形や地域資源を活かした周遊ルート等を検討してまいります。</p> <p>【計画素案54・55ページ掲載】</p>
		<p>サイクリングに行った証（スタンプラリー）を持っていけば、なか健康センターのお風呂が割引で入れるといった特典などもおもしろいと思う。</p> <p>【メール等による意見】</p>	<p>基本方針3に「サイクリストに対するおもてなしの充実」を施策に掲げ、「サイクリストにやさしい協力店舗等の確保」や「市民と連携したサイクリングイベントの開催」等に取り組みますので、その中で検討してまいります。</p> <p>【計画素案53ページ掲載】</p>
		<p>那珂市の強み、弱みを分析したうえで、那珂市独自の取り組みが盛り込まれた計画が出来上がることを期待する。</p> <p>【メール等による意見】</p>	<p>多くのサイクリストに来ていただくためには、那珂市でなければ無いもの、那珂市でなければ体験できないことなど、特徴を打ち出した魅力づくりをしなければならぬと考えておりますので、周遊コースの設定やイベントの企画に当たっては、そうした視点を十分に検討してまいります。</p> <p>【計画素案54ページ掲載】</p>
ネットワーク計画について	ネットワーク路線について	<p>ネットワーク路線の選定と実走は大事なことで、やって効果のある路線から選定すべき。</p> <p>【平田会長 第1回協議会】</p>	<p>庁内PTで試走を行うなど、自転車走行に魅力的なルートの洗い出しや危険箇所等の確認を行い、自転車ネットワーク路線の選定を行いました。</p> <p>【計画素案58.63ページ掲載】</p>
		<p>長期計画で優先路線の整備の意思表示をしないと進まない。事故データやローカルな情報の収集をしつつ路線選定を行うことが必要。</p> <p>【平田会長 第1回協議会】</p>	<p>自転車関連事故のデータをはじめ、庁内PTで試走を行うなど、危険箇所等の確認を行い、自転車ネットワーク路線の選定を行いました。また、安全性や観光利用の面で、優先的に整備する路線については、道路管理者等と協議を重ね、検討します。</p>
		<p>那珂川と久慈川の2つの河川が繋がると、近隣の方もレジャー用途で利用できるため、ルートとして検討してほしい。</p> <p>【平田会長 第1回協議会】</p>	<p>那珂川と久慈川を結ぶルートについては、観光系の自転車ネットワーク路線に位置付けました。</p> <p>【計画素案66・67ページ掲載】</p>

ネットワーク計画 について	ネットワーク路線 について	交通安全系の通勤・通学ルートも設定すべき。 【石川【昭】委員 第1回協議会】	生活系の自転車ネットワーク路線に、主要な通学路も位置付け、安全な走行環境の整備を進めてまいります。 【計画素案63・64ページ掲載】
		路面の状態、交通量も考えてルートを設定してほしい。 【石川【昭】委員 第1回協議会】	県のガイドラインに基づきながら、自動車の交通量や自転車関連事故等の発生状況に考慮しつつ、庁内PTで試走を行い、危険個所等の確認を行った上で、自転車ネットワーク路線の選定を行いました。 【計画素案58.63ページ掲載】
		県道31号線は自転車が通る道としてはあまり良くない。毎朝、那珂三中の生徒達が車とギリギリのところをすれ違っている。自分も出勤の時に危ないと感じている。 【國井委員 第1回協議会】	当該路線は、菅谷市街地と瓜連市街地を結ぶ生活系ネットワークおよび地域資源を結ぶ観光系ネットワーク路線として重要な路線であります。狭い路線であるため、幅員に応じた最適な整備手法を検討し、車と自転車が安全な走行環境で共存できるよう整備を進めてまいります。 【計画素案66・67ページ掲載】
		水戸市やひたちなか市等の周辺市町村と意見交換をしておく必要がある。 【平田会長 第1回協議会】 自転車ネットワーク候補路線の中で、他の市町村へつながるルートについて、関係市町村と調整しているのか。 【石川【昭】委員 第2回協議会】	計画策定にあたり、隣接する市町村（水戸市、常陸太田市、ひたちなか市、常陸大宮市、城里町、東海村）とは、自転車ネットワーク路線に関する事項等について調整しました。 【計画素案58ページ掲載】
		バードラインを活用して、縦断ルートがあってもよい。 【引田委員 第2回協議会】	当該路線は、将来的には拡幅工事を想定しており、那珂市中心部から県植物園に向かうルートになりますことから、観光系ネットワークに路線に位置付けました。 【計画素案66・67ページ掲載】
		「かわまちづくり」については、自転車をそこに置いて走り出す基地になる。ネットワーク路線【案】の図面の中に、記載した方がよい。 【引田委員 第2回協議会】	かわまちづくりの整備エリアについては、サイクリングの拠点となるため、観光系ネットワーク路線図に記載しました。 【計画素案66・67ページ掲載】
		自転車の通学路を優先的に整備する必要がある。 【笹島議員 令和2年第1回市議会 総務生活常任委員会】	市内中学校・高校の生徒の通学での自転車利用率は高いことから、主要な通学路について、自転車ネットワーク路線に位置付けるとともに、通学路交通安全プログラムや道路維持管理業務と連携して、危険個所の改善等を積極的に進め、安全な走行環境の整備を進めてまいります。 【計画素案63ページ掲載】

ネットワーク計画について	ネットワーク路線について	<p>那珂市は、菅谷地区を中心にコンパクトシティとして都市が形成されていることから、まず、コンパクトシティとして「自転車で住める街づくり」を実現するため、市街地と笠松運動公園とを結ぶ『【仮称】自転車ヘルスロード』を整備し、市民の自転車文化の浸透を図る市民に対し、日常生活における正しい自転車文化の醸成を図ることが重要だと思う。</p> <p>しかし、小学校や中学校での交通安全教室には限界があり、効果も限定的なものであることから、安全な自転車通行環境の整備がされれば、ヘルスロードを活用して実践的な自転車マナーの養成ができ、さらには、自転車を覚える幼少期に”お父さんと息子”、”おじいちゃんと孫”のような世代間で一緒に自転車に乗ることにより、希薄になりがちな世代間交流の促進も副次的に期待できるのではないかと考える。近くには那珂警察署があり、立哨指導・見守りなどのフォローも可能と考える。さらには、サイクリングと運動により市民の健康増進にも大きく寄与できると考える。</p>	<p>市街地と笠松運動公園を結ぶ県道31号瓜連馬渡線は、ひたちなか市への通勤利用のほか、笠松運動公園や観光目的での利用も想定されるため、ネットワーク路線に位置付けました。</p> <p>【計画素案63～67ページ掲載】</p> <p>基本方針2に「自転車利用による健康増進の啓発」を掲げ、「健康維持・増進につながる自転車活用の推進」に取り組みますので、具体的な内容を検討する際には、ご意見を参考にさせていただきます。</p> <p>【計画素案52ページ掲載】</p>
	観光系サイクリングについて	<p>観光系サイクリングについては、市単体で考えるのではなく、県が策定した奥久慈里山ヒルクライムルートとの接続を考え、那珂市が県北山間地域への玄関口【那珂IC、水郡線上菅谷駅】という利点を活かし、施策を展開していくべきと考える。</p> <p>上菅谷駅近くにはなか健康センターもあるので、パークアンドBIKEライド、輪行アンドBIKEライドが実現可能。</p> <p>奥久慈里山ヒルクライムルートは、水郡線と並行する区間が多くあるので、那珂市から大子までサイクリングして、帰りは水郡線で帰る、といった選択も可能。</p> <p>【メール等による意見】</p>	<p>観光系ネットワーク路線については、奥久慈里山ヒルクライムルートや、県央地域定住自立圏において設定した水戸市・那珂市・城里町周遊コースとの接続を踏まえて設定しました。</p> <p>また、隣接する市町村（水戸市、常陸太田市、ひたちなか市、常陸大宮市、城里町、東海村）とは、自転車ネットワーク路線について意見交換（照会）を行いました。</p> <p>なか健康センターや水郡線につきましては、サイクルツーリズムの推進のために重要な位置づけになると考えておりますので、イベント等の仕掛けを検討する際には、ご意見を参考にさせていただきます。【計画素案66・67ページ掲載】</p>
整備形態について	ネットワーク計画について、市としてどの程度取り組むつもりか。	<p>【絹代委員 第1回協議会】</p>	<p>自転車ネットワーク路線については、日常使い（生活系ネットワーク）と観光利用（観光系ネットワーク）の両方の視点から設定しました。また、市内中学校・高校の生徒の通学での自転車利用率は高いことから、主要な通学路についても位置付けました。具体的な整備については、矢羽根を中心に、整備の優先順位を付けつつ、予算と相談しながら整備を進めてまいります。</p>
	矢羽根を引くにしても、車と自転車が接近しすぎて描きづらい路線もある。そこに積極的に自転車呼び込むこと自体、良いか、悪いか現場としてジレンマを持っている。	<p>【齋藤委員 第1回協議会】</p> <p>自転車に乗って見ないと課題等が見えてこない。ブルーラインを引くと、自動車に対しても注意喚起となることから、多少、危険が減るかなと思う。</p> <p>【石川【浩】委員 第1回協議会】</p> <p>ブルーラインは、自転車を守るほどの意味がない。ブルーラインについては、よく検討された方がよい。</p> <p>【絹代委員 第2回協議会】</p>	<p>国や県のガイドラインに十分に留意したうえで、道路の幅員に応じた最適な整備手法を検討し、車と自転車が安全な走行環境で共存できるよう整備を進めてまいります。</p> <p>【計画素案47・72ページ】</p>

ネットワーク計画 について	整備形態について	<p>ネットワーク路線を抽出し、どこを優先的に整備していくのか、車道に矢羽根を引くのか自転車道をつくるのか。市役所の裏の路線もそうだが、市内の道路は路肩も比較的広いところが多いため、自転車道の整備も十分に可能性がある。路上駐車への対策も併せて検討してほしい。 【平田会長 第2回協議会】 例えば、市民が安心して通行可能な自転車走行レーンを設置してはどうか。 【メールによるご意見】</p>	<p>自転車道の整備は幅員や費用面から困難と考えておりますが、単に矢羽根の路面表示をするということではなく、今後整備予定の道路は、路肩の幅員を十分に確保すること、既存道路は、幅員に応じた最適な整備手法を検討することとし、車と自転車が安全な走行環境で共存できるよう整備を進めてまいります。 【計画素案47・72ページ掲載】</p>
		<p>自転車ネットワーク路線の整備について、どこまでのレベルが必要なのか、いま一つ分からない。 【齋藤委員 第2回協議会】</p>	<p>道路の拡幅を伴う整備については、期間や費用面から困難と考えておりますが、国や県のガイドラインを踏まえながら、幅員に応じた最適な整備手法を検討してまいります。 【計画素案72ページ掲載】</p>
		<p>自転車活用を推進するためには、まず安全な道路整備を進める必要がある。 【福田議長 令和2年第1回市議会 総務生活常任委員会】</p>	<p>自転車ネットワーク路線の整備については、単に矢羽根等の路面表示をするという考え方を改め、今後整備予定の道路は、路肩の幅員を十分に確保すること、既存道路は、幅員に応じた最適な整備手法を検討することとし、車と自転車が安全な走行環境で共存できるよう整備を進めてまいります。 【計画素案47・72ページ】</p>
		<p>市街地については、歩行者と自転車の走行ゾーンを優先的に整備してはどうか。整備手法については、走行ゾーンをカラーリングしてはどうか。 【メール等による意見】</p>	<p>自転車は、原則、車道を走行しなければならないことから、歩道内ではなく、車道側の路肩や路側帯における整備を想定しております。ただし、上菅谷停車場線については、歩道内に自転車通行帯を設けておりますので、その整備手法の検討に当たっては、参考とさせていただきます。 【計画素案47・72ページ】</p>